

PORT INC.

# 2021年3月期 通期 決算説明資料（訂正）

ポート株式会社 証券コード：7047



# (訂正前) 貸借対照表

- 積極的なM&Aによりのれんは増加しているものの、堅調に事業は進捗しており、計画を上回る結果に。(詳細はP.14)
- ローンを優先した資金調達方針においてM&Aにより有利子負債が増加し、自己資本比率は**32.5%**となった。  
(前四半期末：36.1%、前事業年度末：53.3%)。

単位：百万円		2021年3月期 第4四半期 (2021/3末)	2020/3末比	2020/12末比	2020/3末	2020/12末
流動資産合計		3,770	152	158	3,618	3,612
固定資産合計		2,583	2,245	73	338	2,510
繰延資産合計		24	19	▲1	4	26
<b>資産合計</b>		<b>6,378</b>	<b>2,416</b>	<b>229</b>	<b>3,962</b>	<b>6,149</b>
流動負債合計		1,957	768	265	1,189	1,692
固定負債合計		2,342	1,685	106	656	2,235
<b>負債合計</b>		<b>4,299</b>	<b>2,454</b>	<b>371</b>	<b>1,845</b>	<b>3,928</b>
<b>純資産合計</b>		<b>2,078</b>	<b>▲37</b>	<b>▲142</b>	<b>2,116</b>	<b>2,221</b>
のれん		1,913	1,913	▲238	-	2,152

単位：百万円

# (訂正後) 貸借対照表

- 積極的なM&Aによりのれんは増加しているものの、堅調に事業は進捗しており、計画を上回る結果に。(詳細はP.14)
- ローンを優先した資金調達方針においてM&Aにより有利子負債が増加し、自己資本比率は**32.5%**となった。  
(前四半期末：36.1%、前事業年度末：53.3%)。

単位：百万円		2021年3月期 第4四半期 (2021/3末)	2020/3末比	2020/12末比	2020/3末	2020/12末
流動資産合計		3,806	188	194	3,618	3,612
固定資産合計		2,548	2,209	37	338	2,510
繰延資産合計		24	19	▲1	4	26
<b>資産合計</b>		<b>6,378</b>	<b>2,416</b>	<b>229</b>	<b>3,962</b>	<b>6,149</b>
流動負債合計		1,957	768	265	1,189	1,692
固定負債合計		2,342	1,685	106	656	2,235
<b>負債合計</b>		<b>4,299</b>	<b>2,454</b>	<b>371</b>	<b>1,845</b>	<b>3,928</b>
<b>純資産合計</b>		<b>2,078</b>	<b>▲37</b>	<b>▲142</b>	<b>2,116</b>	<b>2,221</b>
のれん		1,877	1,877	▲274	-	2,152

単位：百万円

# (訂正前) 財務状態と当社方針

- 当社グループでは、各事業のオーガニックな成長のための事業投資は原則EBITDAの範囲内で実施。
- M&A等非連続的な成長投資に関しては、資本コスト及び財務健全性指標に留意しながら、これまで負債（銀行借入れ）を中心に資金調達を実行。
- 期末時点で、有利子負債に対して十分な流動性（現預金）及び収益性（EBITDA）を保持。各種財務健全性指標も良好な水準を維持し、2022年3月期以降の高成長に備えた資本構成を確保。

		2020年3月期末	2021年3月期末	増減
主要BS項目	有利子負債	1,048	2,518	1,470
	株主資本	2,111	2,074	▲37
	現預金	2,764	2,661	▲102
	のれん	-	1,913	1,913
損益項目	EBITDA		188	▲603
	調整後EBITDA ※1	792	929	136
キャッシュフロー	営業キャッシュフロー	668	129	▲538
各種財務指標	自己資本比率	53.3%	32.5%	▲20.8%
	のれん株主資本倍率 ※2	0.0	0.9×	0.9
	調整後インタレストカバレッジレシオ ※3	60.9×	55.4×	▲5.5
	有利子負債 / 調整後EBITDA倍率 ※4	1.3×	2.7×	1.4

※1 調整後EBITDA = EBITDA + 投資コスト

※2 のれん株主資本倍率 = のれん ÷ 株主資本

※3 調整後インタレストカバレッジレシオ = (支払利息 + 社債利息) ÷ 調整後EBITDA

※4 有利子負債 / 調整後EBITDA倍率 = 有利子負債 ÷ 調整後EBITDA

単位：百万円

# (訂正後) 財務状態と当社方針

- 当社グループでは、各事業のオーガニックな成長のための事業投資は原則EBITDAの範囲内で実施。
- M&A等非連続的な成長投資に関しては、資本コスト及び財務健全性指標に留意しながら、これまで負債（銀行借入れ）を中心に資金調達を実行。
- 期末時点で、有利子負債に対して十分な流動性（現預金）及び収益性（EBITDA）を保持。各種財務健全性指標も良好な水準を維持し、2022年3月期以降の高成長に備えた資本構成を確保。

		2020年3月期末	2021年3月期末	増減
主要BS項目	有利子負債	1,048	2,518	1,470
	株主資本	2,111	2,074	▲37
	現預金	2,764	2,661	▲102
	のれん	-	1,877	1,877
損益項目	EBITDA		188	▲603
	調整後EBITDA ※1	792	929	136
キャッシュフロー	営業キャッシュフロー	668	129	▲538
各種財務指標	自己資本比率	53.3%	32.5%	▲20.8%
	のれん株主資本倍率 ※2	0.0	0.9×	0.9
	調整後インタレストカバレッジレシオ ※3	60.9×	55.4×	▲5.5
	有利子負債 / 調整後EBITDA倍率 ※4	1.3×	2.7×	1.4

※1 調整後EBITDA = EBITDA + 投資コスト

※2 のれん株主資本倍率 = のれん ÷ 株主資本

※3 調整後インタレストカバレッジレシオ = (支払利息 + 社債利息) ÷ 調整後EBITDA

※4 有利子負債 / 調整後EBITDA倍率 = 有利子負債 ÷ 調整後EBITDA

単位：百万円

# (訂正前) のれんに対する当社評価

■ 就職領域、リフォーム領域ともに、足元の業績はM&A時の計画以上に推移しており、市場も中長期的に成長（少なくとも維持）すると予測。今後の見通しも順調なため、中長期的な業績貢献が期待できる。

## のれん

合計 **1,913**

2020年6月末買収

**就活会議**  
597 ※1

2020年7月末買収

業界最大級の外壁塗装専門サイト

**外壁塗装の窓**  
1,219 ※2

市場	○	若年人口は減少傾向にあるものの、大学進学率の増加により大学進学者数は向こう20年横ばい。加えて採用激化により市場は拡大傾向。
業績	○	事業利益ベースで計画以上に進捗。会員獲得も計画以上の結果となり、就職領域の業績にも大きく貢献。
見通し	◎	2022年3月期は、市場の回復を鑑みれば、買収時計画以上の進捗を期待できる。

市場	◎	新築の施工数は減少傾向であるものの、リフォーム需要は堅調。また、リフォーム申込のオンライン化により、当社に関連する市場は拡大傾向。
業績	◎	売上およびKPIは、買収時計画比で上振れ進捗。市場環境を活かしながら引き続き積極的な投資によりさらなる業績成長を目指す。
見通し	◎	買収時計画以上の進捗を期待できる。

単位：百万円  
 ※1：「就活会議株式会社」が運営  
 ※2：「株式会社ドアーズ」が運営

# (訂正後) のれんに対する当社評価

■ 就職領域、リフォーム領域ともに、足元の業績はM&A時の計画以上に推移しており、市場も中長期的に成長（少なくとも維持）すると予測。今後の見通しも順調なため、中長期的な業績貢献が期待できる。

## のれん

合計 **1,877**

2020年6月末買収

**就活会議**  
597 ※1

2020年7月末買収

業界最大級の外壁塗装専門サイト

**外壁塗装の窓**  
1,183 ※2

**1,183**

市場	○	若年人口は減少傾向にあるものの、大学進学率の増加により大学進学者数は向こう20年横ばい。加えて採用激化により市場は拡大傾向。
業績	○	事業利益ベースで計画以上に進捗。会員獲得も計画以上の結果となり、就職領域の業績にも大きく貢献。
見通し	◎	2022年3月期は、市場の回復を鑑みれば、買収時計画以上の進捗を期待できる。

市場	◎	新築の施工数は減少傾向であるものの、リフォーム需要は堅調。また、リフォーム申込のオンライン化により、当社に関連する市場は拡大傾向。
業績	◎	売上およびKPIは、買収時計画比で上振れ進捗。市場環境を活かしながら引き続き積極的な投資によりさらなる業績成長を目指す。
見通し	◎	買収時計画以上の進捗を期待できる。

単位：百万円  
 ※1：「就活会議株式会社」が運営  
 ※2：「株式会社ドアーズ」が運営